

「HANEDA INNOVATION CITY」(2020年開業エリア) が本格稼働

東京都大田区の「HANEDA INNOVATION CITY」(HICity) の2020年開業エリアが、9月18日から本格稼働しました。

HICityは、延床面積13万²m²超の大規模複合施設で、当社など9社が出資する羽田みらい開発(株)^{*1}と大田区が、官民連携で開発を進めています。天空橋駅(京浜急行電鉄・東京モノレール)に直結し、羽田空港に隣接する優位な立地を最大限に活かした世界をリードする国際拠点、そして新たな体験や価値を創造・発信する未来志向のまちづくりを推進中です。先端モビリティセンター、水素ステーション、先端医療研究センター、

研究開発ラボ、会議研修センター、ライブホール、体験型商業施設、アート&テクノロジーセンター、交流・連携施設、足湯スカイデッキなどの施設をはじめ、新業態や日本初の店舗が集積します。

また、羽田みらい開発(株)が幹事を務める「羽田第1ゾーンスマートシティ推進協議会」は、国土交通省スマートシティモデル事業において「先行モデルプロジェクト」に選定され、最先端技術の早期実装に向けた実証実験を始動しています。具体的には、人やモビリティ、ロボットなどのリアルタイム位置情報を集約するシステム「3D K-Field」^{*2}を活用しているほか、国内で初めて自律走行バスが施設内循環バスとして運行しています。遠隔での操作とコミュニケーションが可能なアバターロボットなども導入します。

そのほか、先端技術の驚きと日本文化の美しさに触れることができる共用空間を配し、芸術文化創作活動の場・情報発信・学びの場の提供による人材育成・交流を促進していきます。



本格稼働に合わせて開催したオープニングイベントには、多くの報道関係者が集まり、こうした日本文化と先端技術の融合を体験し、施設への注目度の高さが伺えました。10月7日には、赤羽国土交通大臣による視察が行われ、自律走行バスや自律走行低速電動カートに試乗し、新型コロナウイルスや人手不足などの社会課題に対して、無人化技術はますます重要になるとのコメントがありました。



「先端」と「文化」をテーマとした未来志向のまちづくりが動きだしました。2022年度のグランドオープンに向け、今後も一步一步着実に歩みを進めてまいります。

- ※1 羽田みらい開発(株)：鹿島建設(株)、大和ハウス工業(株)、京浜急行電鉄(株)、日本空港ビルデング(株)、空港施設(株)、東日本旅客鉄道(株)、東京モノレール(株)、野村不動産パートナーズ(株)、富士フィルム(株)の9社が設立した本事業を遂行する事業会社
- ※2 3D K-Field：鹿島建設(株)、マルティスーパ(株)、アジアクエスト(株)の共同開発

